

# 福島原発事故を原点に据えて、 日本と世界の歩むべき方向を探る

昨年私達は、「原子力発電の根本問題と我々の選択」と題して、この問題を様々な立場から考え合う会を持ちました。その記録が、近日中に新教出版社から出版される予定です。

本年はこれを受けて、表記のテーマの集会を開催します。原発を早く再稼働させて、日本を再び元気にさせようという声が多く支持者を得ている今、あらためて福島原発事故とは何であったのかを掘り下げ、そこからいのち豊かな世界を次の世代に譲り渡すために、何をなすべきかを真摯に考え合います。



姜 尚中  
(カン・サンジュン)  
Kang Sang-jung

## 「混成型共生社会の可能性」

姜 尚中 (聖学院大学全学教授)

福島第一原発の事故収束のメドはたたず、日々、汚染水が海に流入し、環境汚染が深刻になっています。にもかかわらず、原発ビジネスや原発関連プラントの輸出の見直しは進まず、経済のシステムや私たちの暮らし、その価値の座標軸は、「3・11」以前にもどり、より「大」しく、より「速」く、より「高」く、といった「成長神話」に拍車がかかりつつあります。それによって押しつぶされていく、弱者や過疎地域、零細企業や地域経済の衰弱はますます深刻になり、精神を病む人々の数も増えています。これが、地震とツナミの大天災と原発事故という空前の人災を経験した社会の姿であるとする、私たちは「3・11」からいったい何を学んだのでしょうか。講演では、より「大」しく、より「速」く、より「高」くと、より「小」さく、より「遅」く、より「低」くところが共存できる社会はないのか、私なりの考えを開陳してみたいと思います。

1950年、熊本県熊本市に生まれる。国際基督教大学準教授、東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授などを経て、現在聖学院大学全学教授、東京大学名誉教授。専攻は政治学、政治思想史。テレビ・新聞・雑誌などで幅広く活躍。主な著書に『マックス・ウェーバーと近代』、『オリエンタリズムの彼方へ』、『ナショナリズム』、『東北アジア共同の家をめざして』、『増補版 日朝関係の克服』、『在日』、『姜尚中の政治学入門』、『ニッポン・サバイバル』、『愛国の作法』、『悩む力』、『リーダーは半歩前を歩け』、『あなたは誰？私はここにいる』など。共著に『グローバル化の遠近法』、『ナショナリズムの克服』、『デモクラシーの冒険』、『戦争の世紀を超えて』、『大日本・満州帝国の遺産』など。編著に『在日一世の記憶』など。小説『母—オモニ—』、『心』を刊行。



## 「今、聖書から問う —核利用の根にあるもの—」

上山 修平 (日本キリスト教会横浜海岸教会牧師)

20世紀半ばから始まった核エネルギーの利用。その結果、苦悩の中に置かれている現代世界。自然(被造物)を構成する基本である原子核に人間が手を加えて利用する時代に入った今、聖書の読み直しが求められています。

科学技術とは、国家とは、そしてこの世界とは。今、それらについて聖書は何を語りかけて来るのかを考えてみたいと思います。

上山 修平 UHEYAMA Shuhei

1954年生まれ。京都大学工学部機械工学科を卒業後、放射線CTの設計開発の仕事に携わる。その後、献身し牧師に。下関の教会時代に脱原発運動に取り組む。現在、横浜海岸教会牧師。著書に、『子どもの神学』、『科学技術とキリスト教』、『原発とキリスト教』(論文収録)など。

《日時》

2014年

1月12日(日)

16:00 ~

13日(月・祝)

16:00

《場所》

関西セミナーハウス

修学院きらら山荘

(京都市左京区

一乗寺竹ノ内町23

Tel: 075-711-2115)

<地図裏面>

《参加費》

一般 12,000円

学生 5,000円

(宿泊3食込)

\* 1月8日までに

FAX(裏面フォーム)、  
電話、電子メール等  
お申し込みください。

<申込み詳細裏面>

